紫錦山西光寺寺報　第76号

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

「彼岸会は中止いたします…」

慈光照護のもと、門信徒の皆さまにはますますご清祥にお念仏ご相続のことと慶賀に存じあげます。

連日新型コロナウイルスのニュースばかりでいったい日本は、世界はどうなってしまうのだろうと不安に思います。この世は諸行無常といつも聞かされ、また自分でもことあるごとにお話しさせていただいていますのに、いざいつもと違うことが起こり、これまでと同様な生き方ができなくなるとたんに不安に襲われます。仏教が起こったころのインドも、親鸞聖人が生きられた時代も、そして現代も、明日は何が起こるかわからないことは同じはずなのに、明日もあり、来年もありということが当然のように思われてしまいます。お寺のブログではすでにお知らせさせていただいておりますが、**今年の春の彼岸会は中止とさせていただきます。**五月二十三日の前々住職五十回忌＆前住職七回忌までにはなんとか収束していることを願って止みません。

彼岸会にお話させていただこうと思っておりましたが、彼岸という言葉は『向こう岸』つまりお浄土を表しています。元々はインドの言葉で『パーラミター』（波羅蜜多）の訳『到彼岸』（生死を超越した理想の境地。悟りの境地。涅槃）を意味します。太陽が真西に沈む春分の日と秋分の日には、すべてのいのちが還っていくという西のお浄土を心に思い浮かべて、ご先祖が往生され、またすぐに私も生まれさせていただく阿弥陀さまのお浄土を思ったのだと思います。

下の写真は大阪の四天王寺の西門です。こんなに埋め立てられる前はこの門の先がもう大阪湾だったそうです。お彼岸の中日には写真のように太陽が真西に沈んで行く様子にお参りのみなさんが手を合わせるそうです。今でも千人以上の方が参拝されるそうですよ。この写真は例によってインターネットから無断で拝借したものです（まあ100部ほどの寺報なのでお許しいただこうと思います💦。本当はダメですけどね💦）が、私もいつか参拝してみたいな～と思います。この近くの平野区というところの光永寺の門前に、テレビ番組の『孤独のグルメ』でやっていた、姉妹で経営されているどて焼・串焼きの屋台があるんですよ～😋。食べることが第一目的な食い意地の張った住職です💦。ご門徒さまにはいつもお話しておりますが、住職はいままで食べられなかったものがありません。どこに行っても何を食べてもだいたい美味しくいただけます。苦手な人も多い『くさやの干物』なども美味しいですし、台湾の『臭豆腐』なんかも大好きです。健康で好き嫌いなく産んでもらったことは両親に感謝しなくてはいけません🙏。大学時代の友人にも後輩にも、教員時代の生徒さんにも先に往生された方がおられます。私のいのちがまだあるという意味をよく考えなければなりません。

住職が勤めを辞めて京都の伝道院に行かせていただいてから、この春でなんと14年になります。あまりに早くて驚くばかりです。そのころから月参りを多くさせていただくようになり、そのころ50代だったご門徒さまが「もう70になったよ」などとおっしゃられてビックリすることがあります。よく考えれば44歳で年齢制限ギリギリで伝道院に行った私も、来年は還暦です。此岸（彼岸の反対＝娑婆）に残された時間はそれほど多くないことを実感します。間違いなく浄土に往生させるとお誓いくださった阿弥陀さまのみ教えを、これからも健康でいられる限り門信徒のみなさまと共に聴かせていただこうと思っています。

「戦争というものは……」

五月の法事の時に、前々住職と前住職の写真をスライドショーにして上映しようと思って（怠惰な住職のことですから実現するかどうかは疑問ですが💦）、時間があると倉庫から昔のアルバムなどを引っ張り出してきて写真を漁（あさ）っています。そんな中で昭和十七年に西光寺の梵鐘（ぼんしょう）をはじめ、あらゆる金属製の仏具を軍に供出したときの写真が出てきました。当時は勝利を信じて仏具を武器に作り替えたのだと思いますが、こんなとんでもないことをして勝てるはずもありません。戦争で尊いいのちを落とされた数百万人のみなさんには申し上げる言葉も見つかりません。住職は昭和三十六年の生まれで、戦後の混乱も全く知りませんし、食べるものがなくて辛い思いをしたことすらありません。過去には広島の平和記念資料館、長崎の原爆資料館、沖縄のひめゆり平和祈念資料館なども訪問させていただきましたが、展示を見ることすらとても辛くてたまらない気持ちになったことを憶えています。

人類の歴史は戦いの歴史だと言いますが、人間以外の動物にも熾烈（しれつ）ななわばり争いがありますし、植物の世界にも日光や水を得るための戦いに似た仕組みがあります。生物が生きていくということは、争いを避けることはできないということかもしれません。しかし、この地球上で、思いがけず知能が発達した人類だからこそ、争いをせずに持続可能な生き方を創り出せないものでしょうか。昭和四十五年の万国博覧会に行った住職は興奮して、二十一世紀は『人類の進歩と調和』で素晴らしい世界になると真剣に思いました。ところが現実の二十一世紀はどうなっているでしょうか……。争っている場合ではありません。地球規模の危機をみんなで乗り越えていかねばならないはずです。

「感染予防の秘密？」

住職が二〇〇七年にインドを旅したとき、コルカタ（旧カルカッタ）にあるマザー・テレサの『死を待つ人々の家』でボランティアの真似事（まねごと）をさせていただきました。そこではエイズ、結核、肝炎、疥癬（かいせん）その他さまざまな感染症をはじめとする病気の方が運ばれてきます。私たちは彼らの衣服を素足で踏んで洗い（洗濯機はいつか壊れるのではじめからない！）、食器を洗っていました。最初私は何かの病気に感染しないか不安だったのですが、そこで二年もボランティアをされている日本人の方が「しっかり食事を摂って良く寝れば大丈夫！」と力強くおっしゃっていたのがとても印象に残っています。みなさんもうがい・手洗い・マスク以外にも、『良く食べて良く寝る』ことを心がけてください。食べたいものを食べることも大切です。私たち生き物は本能的に今体に必要としているものが食べたくなるようにできています。生き物としての本能を研（と）ぎ澄（す）ましましょう。ではまた次号でお会いしましょう。

住職携帯　090－8967－7902
メール　soichiro4989@gmail.com
ブログ　西光寺で最高時！